高生の丘

北九州市立高生中学校
学校通信　卒業･進級記念号　No.１８
発行責任者　校長　寺田　訓康
ＴＥＬ　８８１－３２７６
平成２９年３月１７日発行

■ 前を向いて、自分の良さを発揮しよう！

91 名が未来へ巣立っていきました。

まだ、春の寒さが残っていた 3 月 10 日（金）に、北九州市立高生中学校第 30 回の卒業式が行われ、91 名が高生中を巣立って行きました。

卒業式の中で、多くの方からお話しがありました。教育委員会からは、「一人一人が自分の良さを発揮して素晴らしい未来を作ってください」と「一隅を照らす」という言葉を贈られました。また、野村ＰＴＡ会長からは、「サッカーやラグビーで使われている規定の時間が過ぎてもプレーを続けるロスタイム（失われた時間）という言葉は、アディショナルタイム（得られた時間）に代わりました。同じことですが、これから先も物事をプラスに、前向きに捉えましょう。」とのお話を頂きました。在校生代表の今村さんは、「入学以来の先輩方の心遣いに感謝しています。希翔会で約束したように、これからも高生中を誇らしい学校にしていくので安心してください。」と 3 年生に向けて送辞を贈ると、3 年生の若松君からは、雨の体育大会や全校合唱を披露した文化発表会などの思い出を語り、地域の方や保護者の皆様、そして先生方へのお礼を述べてくれました。また在校生の皆さんには、若松君の好きな、リンカーンの「意思あるところに道は開ける」という言葉を述べ、前を向いて進み、全員で高生中学校を盛り上げ、より良い学校にしてくださいと述べてくれました。

異口同音に「前を向いて、自分のよさを発揮して欲しい」と言われていました。皆さんも覚えていると思いますが、希翔会（3 年生を贈る会）で、最後に校歌を歌いました。3 年生は、今までの思いを在校生の皆さんに伝えるように大きな声で歌ってくれました。3 年生は、それぞれの中学生活で前向きに取り組んできたから、あのように胸を張って校歌を歌えたのだと思います。卒業式でも伝えましたが、先生も、戸畑の町や高生中学は、大変素晴らしい町であり、学校だと思います。それは、みんながやりたいこと頑張りたいことを支えてくれる地域やお家の方、そして先生方がいらっしゃるからだと思います。後は、皆さんのやる気次第です。卒業生は、私達に良い見本を示してくれました。これから私達も、卒業生に思いに応えられるように、そして、卒業生や地域の方が高生中学に誇りを持ってもらえるように在校生の皆さんと先生達が力を合わせて前向きに、自分のよさを発揮しましょう。

これからも前向きに自分のよさを発揮してください

■ 文部科学大臣賞を受賞しました。

末兼明日香さん（1 年）が、第６１回毎日全国学生競書展（毎日新聞社、西部毎日書道会など主催）で、最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞しました。（裏面に新聞記事を掲載しています。）

本年度も、様々な面で多くの皆さんが活躍してくれました。新年度も、様々な面で、高生中生徒の活躍を待っています。

■ 忘れてはいけない 3 月 11 日

卒業式の翌日である3月11日（土）で、東日本大地震から6年が過ぎました。復旧は急ピッチで進んでいますが、まだまだ日常の生活に不自由を感じている人や、中には住みなれた土地を離れなければならなくなった人もいます。また、生活は元に戻っても、心の中に深い傷を負った方もたくさんいらっしゃいます。大変残念なことに、被災地に住めなくなり、転校した学校で、心無い言葉をかけられ、中には、お金を取られた中学生がいるという報道もありました。同じ中学生として、絶対にしてはいけない行動です。

また、4月14日は、熊本地震から1年目を迎えます。職員室前の掲示板には、熊本地震で被害を受けた中学校から「当たり前の生活ができることに感謝してください」とのメッセージを掲載しています。

私達は、忙しい日々の中でも絶対に忘れてはいけないことがあります。私達にも、何かできることはあるはずです。今、私達ができることは何なのかみんなで考えて、そして実行していきましょう。

■ これからの主な予定

4 月 7 日（金）　始業式
4 月 11 日（火）第 31 回入学式
4 月 17（月）～21 日（金）家庭訪問週間
（詳細は別紙でお知らせします。）
4 月 18 日（火）全国学力･学習状況調査
（新 3 年（現 2 年）
4 月 22 日（土）土曜日授業（ＰＴＡ総会）
修学旅行説明会（3 年）
ふれあい合宿説明会（1 年）

３月の目標

**「新学期に向けて
心の準備をしよう」**

卒業した 3 年生に自慢できるような高生中学をみんなで作ろう！

■ 自分が納得できる努力を！

表にも書きましたが、末兼さんが文部科学大臣賞に輝きました。もちろん、この賞を受けたことは素晴らしいのですが、並行して部活動も頑張っていること、そして新聞にも書いてあるように、自分が納得できるまで努力したことも素晴らしいと思います。人がどう思うかでなく、自分に正直に頑張りたいですね。

毎日全国学生競書展

文科大臣賞に末兼さん（高1生中1年）

入賞者が24日発表された第61回毎日全国学生競書展（毎日新聞社、西部毎日書道会など主催）で、北九州市立高生中1年、末兼明日香さん(13)が最高賞の文部科学大臣賞に輝いた。末兼さんは「受賞を聞いた時は実感が湧かなかったが、手本通りしっかり書くことができた」と語った。【奥田伸一】

文部科学大臣賞を受賞し、笑顔を見せる末兼さん

末兼さんが出品したのは規定の部・毛筆で、課題は「英雄」。肉太で力強い筆遣いを意識し、それぞれの文字のバランスに気を配った。末兼さんによると、「雄」はすぐに納得できたが「英」は払いが難しく、受賞作を仕上げるまで50枚余り書いたという。

末兼さんが書道を始めたのは6歳の時。4歳上の兄や書道が上手ないとこの影響で、今も指導を受ける小島静可さん(50)の書道教室（戸畑区）に通い始めた。小島さんは「教えたことはすぐ身に着けた」と振り返る。母親のるり子さん(49)は「書道を始めた頃から楽しそうに教室に通っていた。好きなことで賞を取れてよかった」と声を弾ませる。

中学生になってからは毎週金曜日の夜、2時間ほど教室で書に取り組む。同じ時間帯には社会人ら10人が通い、末兼さんは最年少だが「彼女は納得するまで一生懸命書く」と一目置かれる存在だ。バスケットボール部の活動などで多忙な日々だが「もっと習字がうまくなりたい」と頬を赤らめながら話した。

毛筆の部

納得するまで一生懸命

これが大切ですね。（難しいけど）